

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成29年6月28日

【事業年度】 第79期(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

【会社名】 チヨダウーテ株式会社

【英訳名】 CHIYODA UTE CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平田晴久

【本店の所在の場所】 三重県四日市市住吉町15番2号
(本店事務取扱場所)三重県三重郡川越町高松928番地

【電話番号】 (059)364 - 5215〔代表〕

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 種田貴志

【最寄りの連絡場所】 三重県三重郡川越町高松928番地

【電話番号】 (059)364 - 5215〔代表〕

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 種田貴志

【縦覧に供する場所】 チヨダウーテ株式会社 東京支社
(東京都台東区寿三丁目14番11号)
チヨダウーテ株式会社 大阪支店
(大阪府大阪市西区南堀江一丁目1番14号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月
売上高 (百万円)	27,977	31,074	30,451	29,903	30,861
経常利益又は 経常損失() (百万円)	202	49	516	543	577
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失() (百万円)	1,027	78	404	940	429
包括利益 (百万円)	896	78	595	830	506
純資産額 (百万円)	9,451	9,801	11,556	12,304	12,636
総資産額 (百万円)	32,250	33,256	34,128	35,496	35,164
1株当たり純資産額 (円)	669.37	642.83	662.80	705.15	731.14
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり当 期純損失金額() (円)	73.58	5.25	26.21	53.96	24.79
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	29.3	29.5	33.9	34.6	35.9
自己資本利益率 (%)	10.4	0.8	3.8	7.9	3.5
株価収益率 (倍)			17.9	8.0	24.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,427	315	1,700	2,089	2,663
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,632	1,421	774	2,157	1,357
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	188	1,027	865	51	1,060
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	1,517	1,438	1,507	1,491	1,737
従業員数(ほか、平均臨 時雇用者数) (名)	503 (338)	521 (360)	545 (343)	588 (312)	597 (323)

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 第75期及び第76期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第77期～第79期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 従業員数は、就業人員数を表示しております。
5. 第76期 平成25年8月27日を払込期日とする第三者割当増資1,350,000株を実施しております。
6. 第77期 平成27年3月3日を払込期日とする第三者割当増資2,200,000株を実施しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月	平成29年 3月
売上高 (百万円)	25,925	28,698	27,917	27,077	27,871
経常利益 (百万円)	234	48	386	333	424
当期純利益又は 当期純損失 () (百万円)	1,565	55	300	604	341
資本金 (百万円)	3,743	4,181	4,674	4,674	4,674
発行済株式総数 (株)	14,120,000	15,470,000	17,670,000	17,670,000	17,670,000
純資産額 (百万円)	9,480	10,238	11,923	12,433	12,678
総資産額 (百万円)	30,897	32,027	32,963	33,903	33,341
1株当たり純資産額 (円)	671.40	671.43	683.81	713.08	734.95
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	5.00 ()	3.00 ()	5.00 ()	5.00 ()	5.00 ()
1株当たり当期純利益 金額又は1株当たり当 期純損失金額 (円)	112.16	3.72	19.48	34.67	19.73
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円)					
自己資本比率 (%)	30.7	32.0	36.2	36.7	38.0
自己資本利益率 (%)	15.4	0.6	2.7	5.0	2.7
株価収益率 (倍)		121.4	24.1	12.5	30.9
配当性向 (%)		80.6	25.7	14.4	25.3
従業員数(ほか、平均臨 時雇用者数) (名)	381 (319)	398 (339)	400 (348)	413 (330)	423 (334)

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 第75期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第76期～第79期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 従業員数は、就業人員数を表示しております。
5. 第76期 平成25年8月27日を払込期日とする第三者割当増資1,350,000株を実施しております。
6. 第77期 平成27年3月3日を払込期日とする第三者割当増資2,200,000株を実施しております。

2 【沿革】

年月	概要
昭和23年1月	三重県四日市市住吉町に千代田建材(株)を設立、厚型スレートの製造を開始。
昭和30年4月	三重県三重郡川越町に石膏ボード工場を建設し、製造販売を開始。
昭和32年6月	社名を千代田建材工業(株)に変更。
昭和40年1月	神奈川県厚木市に厚木工場完成し、生産を開始。
昭和45年7月	貝塚工場が大府貝塚市に最新鋭工場として完成し、生産を開始。
昭和54年3月	東京都江東区に東京営業所の事務所及び宿舍を建設。
昭和61年5月	千葉県君津郡袖ヶ浦町に千葉工場完成し、生産を開始。これに伴い、厚木工場の生産を停止。
昭和62年9月	各種建築資材の販売を業務とする東京総合資材(株)を設立。(現・連結子会社)
平成元年6月	内装間仕切及び、天井用鋼製下地材料の製造販売を業務とするチヨダメタルスタッド(株)を設立。
平成2年6月	総合建築資材メーカーを目指すため、社名をチヨダウーテ(株)に変更。
平成2年10月	社団法人日本証券業協会に店頭登録銘柄として新規登録。
平成3年6月	自動車運送取扱業を業務とするチヨダエクスプレス(株)を設立。(現・連結子会社)
平成5年11月	機械設備の設計・製作を業務とする川越エンジニアリング(株)(現チヨダグリーンセラ(株))を設立。 (現・連結子会社)
平成9年2月	岡山県玉野市に岡山工場完成し、生産を開始。
平成11年3月	北海道アドラ建材(株)、アドラ建材(株)及び三井東圧西部建材(株)より営業譲渡を受ける。
平成13年12月	東京アークシステム(株)を株式の追加購入により子会社とする。(現・連結子会社)
平成16年11月	北海道室蘭市に室蘭工場が完成し、2月より本格生産を開始。 これに伴い、砂川工場の生産を停止。
平成16年12月	ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成21年12月	窯業、セラミックス製品の製造及び販売を業務とするチヨダセラ(株)を設立。(現・連結子会社)
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
平成22年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成22年11月	鋼製下地材の販売を業務とするチヨダメタルスタッド中部(株)を設立。(現・連結子会社) 鋼製下地材の製造及び販売を業務とするチヨダメタルスタッド関西(株)を設立。(現・連結子会社)
平成22年12月	石膏ボードの加工を業務とするチヨダ加工センター(株)を設立。(現・連結子会社)
平成23年1月	事業運営の効率化を図るため、チヨダメタルスタッド(株)を吸収合併。
平成25年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。
平成27年4月	機能性コーティング材の開発、製造及び販売を業務とする(株)ピアレックス・テクノロジーズを株式の購入により子会社とする。(現・連結子会社)
平成28年3月	東京支店を東京支社に昇格し、東京都台東区へ移転。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社17社（連結子会社10社、非連結子会社7社）並びに関連会社2社で構成され、石膏ボードを中心とする建築資材の製造、販売を主に、これらに付帯する一切の事業を行っており、事業区分としては単一セグメントであります。

当社グループの事業に係わる位置付け及び事業部門等との関連は、次のとおりであります。

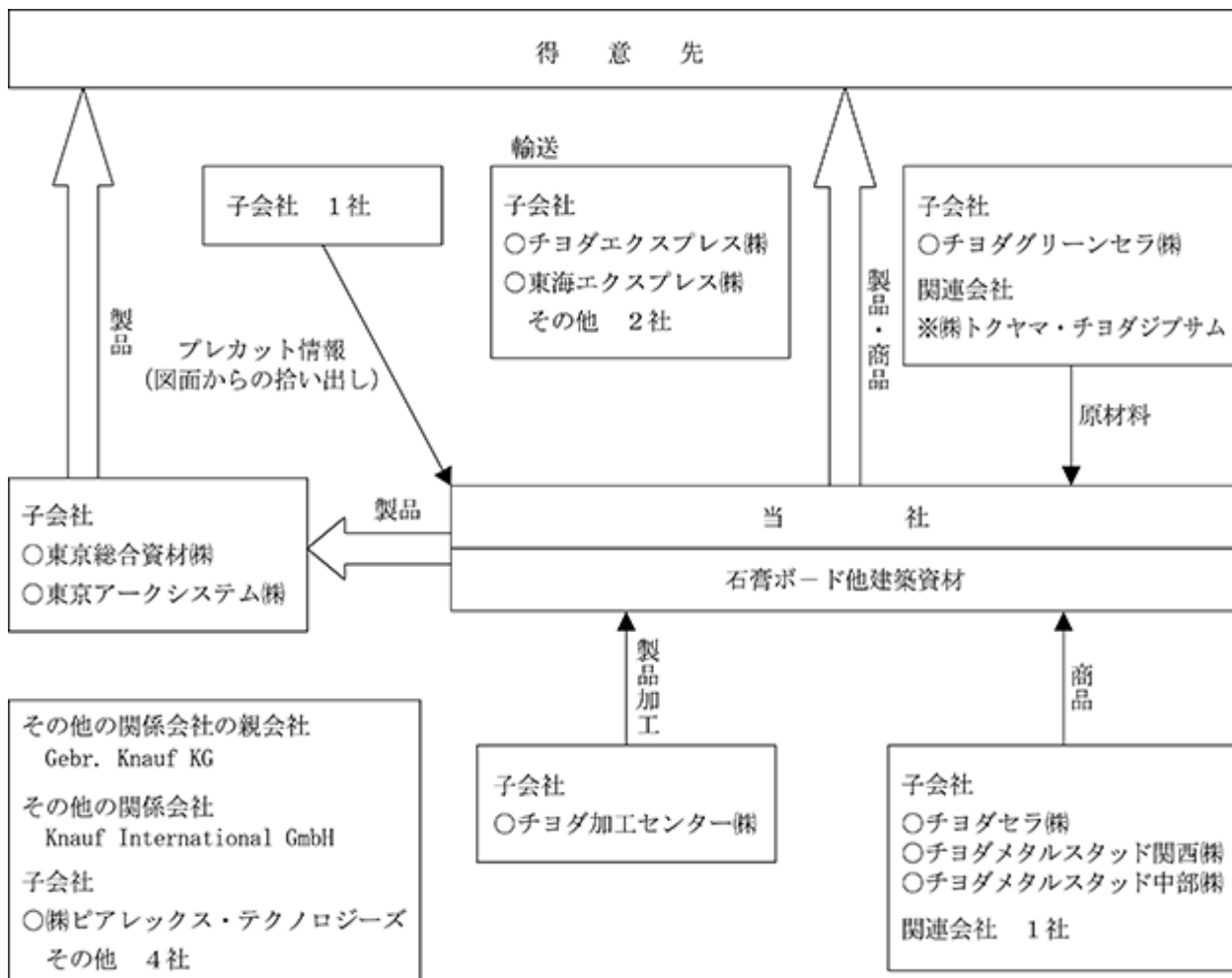
石膏ボード

製造・販売	チヨダウーテ(株)
販売	東京総合資材(株)、東京アークシステム(株)
輸送	チヨダエクスプレス(株)、東海エクスプレス(株)
製品加工	チヨダ加工センター(株)

その他

- チヨダウーテ(株)(石膏ボード以外の購入商品の販売)
- チヨダグリーンセラ(株)、チヨダセラ(株)、チヨダメタルスタッド中部(株)
- チヨダメタルスタッド関西(株)、(株)ピアレックス・テクノロジーズ、

事業の系統図は、次のとおりであります。



○印は、連結子会社
 ※印は、持分法適用関連会社

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(その他の関係会社の親会社) Gebr. Knauf KG	Federal Republic of Germany	608,400千ユーロ	持株会社		26.0 (26.0) [12.7]	
(その他の関係会社) Knauf International GmbH	Federal Republic of Germany	60,000千ユーロ	持株会社		26.0 [12.7]	
(連結子会社) 東京総合資材(株)	東京都 江東区	20,000千円	石膏ボード	100.0		当社製品の販売 役員の兼任 2名
チヨダエクスプレス(株) (注)3	三重県 三重郡川越町	50,000千円	石膏ボード	100.0		当社製品の運送取扱 資金援助あり。 役員の兼任 2名
チヨダグリーンセラ(株)	三重県 三重郡川越町	20,000千円	その他	100.0 (30.0)		パーミキュライト等原料の 供給 資金援助あり。 役員の兼任 2名
東海エクスプレス(株)	三重県 三重郡川越町	13,000千円	石膏ボード	100.0 (100.0)		当社製品の運送 役員の兼任 2名
東京アークシステム(株)	東京都 江東区	30,000千円	石膏ボード	100.0		当社製品の販売 役員の兼任 2名
チヨダセラ(株)	神奈川県 伊勢原市	30,000千円	その他	100.0		窯業、セラミックス製品の 供給 資金援助あり。 役員の兼任 1名
チヨダメタルスタッド中部(株)	三重県 三重郡川越町	20,000千円	その他	66.6		鋼製下地材の販売 役員の兼任 3名
チヨダメタルスタッド関西(株)	大阪府 堺市堺区	20,000千円	その他	65.0		鋼製下地材の製造・販売 役員の兼任 1名
チヨダ加工センター(株)	三重県 三重郡川越町	10,000千円	石膏ボード	100.0		当社製品の加工 役員の兼任 1名
(株)ピアレックス・テクノロジーズ	大阪府 泉大津市	10,000千円	その他	82.7		機能性コーティング材の製 造・販売 役員の兼任 2名
(持分法適用関連会社) (株)トクヤマ・チヨダジブサム	三重県 三重郡川越町	95,000千円	石膏ボード	49.0		廃石膏ボードのリサイクル 製品の供給 債務保証 役員の兼任 3名

- (注) 1. 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。
2. 「議決権の所有(被所有)割合」欄の[内書]は、緊密な者または同意している者の所有割合で外数であります。
3. 特定子会社であります。
4. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成29年3月31日現在

事業部門等の名称	従業員数(名)
石膏ボード	532 (307)
その他	65 (16)
合計	597 (323)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 当社グループは、単一セグメントであるため、事業部門別の従業員数を記載しております。
3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(2) 提出会社の状況

平成29年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
423 (334)	43.3	13.9	5,317

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

(3) 労働組合の状況

- a 名称 : チヨダウーテ労働組合
b 組合員数 : 227名
c 所属上部団体名 : 三重一般同盟
d 結成年月日 : 昭和48年5月2日
労使関係は円満であり、特記事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、当初は足踏み状態が続いたものの、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、緩やかな回復基調となりました。また、世界経済は新興国の景気減速や英国のEU離脱問題等不透明なリスク要因を抱えながらも、米国景気が牽引し緩やかな拡大基調が続きました。

住宅市場におきましては、年度末にかけて鈍化の動きがみられましたが、日銀のマイナス金利導入に伴う住宅ローン金利の低下もあり、貸家を中心に概ね堅調に推移し、平成28年度の新設住宅着工戸数は974千戸（前年度比5.8%増）となりました。

石膏ボード業界におきましては、平成28年度の製品出荷量は504百万㎡（前年度比0.7%増）と前年水準をやや上回りました。しかしながら、新設住宅着工戸数の押し上げ要因が主に貸家であることから一棟当たりの石膏ボード使用量が伸び悩むという一面も窺われました。

当社グループにおきましては、昨年春に東京支店を支社に昇格させ、営業と営業支援部門を同一拠点に集約し効率化を図るとともに、顧客向けの製品取扱いの研修会を充実させる等サービス向上に努めてまいりました。また、千葉工場で実施したドライヤー熱効率改善工事を他工場に展開する等、各工場における生産体制の見直しによる合理化・効率化対策を継続して進めているところであります。更に石膏ボード以外でも断熱性・防火性に優れた断熱材アースウールの販売を新たに開始しており、これまでのケイ酸カルシウム板や鋼製下地材等の拡販もあわせて収益確保に取り組んでまいりました。

この結果、当社グループにおける業績は、売上高は308億61百万円（前年同期比3.2%増）となりました。また、営業利益は5億87百万円（前年同期比9.6%増）、経常利益は5億77百万円（前年同期比6.3%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前期計上した東京支店の譲渡による固定資産売却益の影響により、4億29百万円（前年同期比54.3%減）と減少しました。

当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントの業績は記載を省略しております。

また、事業部門等の区分による記載は「石膏ボード」と「その他」の区分により記載しており、業務区分については記載が困難なため記載を省略しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、17億37百万円と前連結会計年度末に比べ2億45百万円の増加となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、26億63百万円の資金収入となりました。（前連結会計年度は20億89百万円の資金収入）

主な収入は減価償却費15億73百万円、税金等調整前当期純利益5億78百万円、主な支出は法人税等の支払額2億74百万円であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、13億57百万円の資金支出となりました。（前連結会計年度は21億57百万円の資金支出）

主な収入は貸付金の回収による2億96百万円、主な支出は有形固定資産の取得による14億92百万円であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、10億60百万円の資金支出となりました。（前連結会計年度は51百万円の資金収入）

主な収入は長期借入れによる11億95百万円、社債の発行による7億87百万円、主な支出は長期借入金の返済による20億円、短期借入金の純増減額の減少4億25百万円であります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

区分	製品製造原価(千円)	前年同期比(%)
石膏ボード	13,602,281	100.9
その他	1,982,753	112.8
合計	15,585,035	102.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

(3) 販売実績

区分	売上高(千円)	前年同期比(%)
石膏ボード	23,886,821	103.4
その他	6,975,094	102.5
合計	30,861,916	103.2

(注) 1. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	売上高(千円)	割合(%)	売上高(千円)	割合(%)
SMB建材株式会社	3,871,340	12.9	4,473,220	14.5

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3. 三井住商建材株式会社は、平成29年1月1日付で同社を存続会社として丸紅建材株式会社と合併し、社名をSMB建材株式会社に変更しております。

3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

品質面でたゆまずレベルアップを図る一方、建築資材の専門メーカーとして常に独自の商品開発力（Unique Technology）を強化し、社会に支持される高機能・高付加価値製品の開発と市場への提供を目指します。

(2) 目標とする経営指標

当社は「配当政策に関する基本方針」の実現のため収益性の改善に努めており、収益を事業活動から生じるキャッシュベース（EBITDA）で把握し、売上高に対する比率（EBITDAマージン）を経営指標としております。

EBITDAの改善には、取り巻く経営環境に応じ、売上高と経費の適切なコントロールが求められます。

（注）EBITDA（利払い前、税引き前、償却前利益） 営業利益 + 減価償却費

(3) 中長期的な会社の経営戦略

長期的な経営戦略として、「環境」をテーマに「人と地球にやさしい石膏ボード」製品の開発を継続し、石膏ボードリサイクルシステムの確立と事業化、及び工場廃棄物ゼロの実現を目指します。

一方で中期的には、目標とするEBITDAマージンの向上を図る為、生産効率の徹底した改善や高付加価値品の販売強化を推進する等、製造・販売一体となって収益力の改善に取り組んでおります。

更に当社グループ各社の特色と強みを生かし融合するための各種施策を講じつつ、新たな有望事業の育成にも注力し、成長性と収益性の向上に取り組んでまいります。

今後とも石膏ボード事業を主体に持続的かつ安定した事業基盤作りを進め、企業価値の向上に努めてまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

今後のわが国の経済見通しとしましては、米国経済が引き続き底堅さを維持し世界経済が総じて堅調に推移するとみられることから、日本の輸出は増勢を強め、生産・設備投資等に波及しながら先行き回復傾向を強めていくことが予想されます。金融政策も、当面、長期金利をゼロ％に誘導する等の現行政策が継続され、景気回復の後押しをすると見込まれております。

住宅市場におきましては、住宅ローン減税をはじめとする住宅取得や増改築の諸施策が拡充されていますが、住宅着工戸数は昨年後半から鈍化の動きがみられており、オリンピック関連の投資が期待できるものの若干の弱含みが見込まれております。

当社グループにおきましては、今後石膏ボードの市場規模が頭打ちとなることを見込まれる中、昨年より、安定した収益を確保し強靱な企業基盤を確立することを目的に、営業・製造・購買・在庫管理・物流等の各分野で、社内横断的なワーキンググループを立ち上げソリューション活動に取り組んでまいりました。こうした活動を通じ、千葉工場で実施した熱効率改善工事の他工場への展開や、修繕工事の一部内製化による外注費の節減と生産稼働率の向上に取り組んでいるところであります。また一般社団法人H E A D研究会より、「優れた建築を生み出すことに貢献しうる優れた建材・製品」として受賞した「コーナーボード」（2016年度H E A Dベストセレクション賞）は、多くの皆さまからご支持を得ているところでありますが、新たな付加価値による需要発掘は極めて重要であり、今後とも市場ニーズの把握と製品開発に取り組んでまいります。

石膏ボード以外のビジネス領域におきましては、新規に立ち上げた断熱材販売事業を早期に軌道に乗せるとともに、ケイ酸カルシウム板や光触媒等の各事業基盤を一層強化し、グループ全体の収益力の底上げを図ってまいります。

当社は、来年1月に会社設立70周年という節目を迎えます。『共に挑み、明日を創る。』というコーポレートメッセージをグループ社員が共有し、現在継続しておりますソリューション活動に一層チーム力を高めて取り組み、企業価値の持続的な向上に努めてまいり所存であります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあり、投資家の判断に影響を及ぼす可能性がある事項と考えております。

なお、文中の将来に関する事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

景気変動による需要減少リスク

当社グループは建築の内装材料である石膏ボードを生産・販売しており、新設住宅着工や今後のリフォーム需要の動向などによって経営成績に影響を受ける可能性があります。

競合動向による販売価格低下リスク

石膏ボードは、品質面での差別化が難しく同業他社との競合に伴う販売価格の変動があった場合には、当社グループの経営成績に影響を受ける可能性があります。

市況変動による調達価格上昇リスク

石膏ボードの製造に係る主要原材料や燃料費等が市況の変動により、調達価格が上昇した場合には当社グループの経営成績に影響を受ける可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループにおいて、研究開発活動は当社(石膏ボード部門)が主に行っております。当社の研究開発活動については、以下のとおりであります。

当社におきましては、開発本部において研究開発人員17人で、石膏ボードを中心とした研究開発活動を行っており、なかでも、

石膏ボードの持っている防火、耐火、遮音、省エネルギー等の特性を生かした機能建材の開発

石膏ボードの製造技術に係わる原材料の研究

工業所有権の出願、管理

石膏ボード廃材リサイクルの研究

その他各種情報の収集分析

等に関する業務を中心として行っております。

平成29年3月期においては

高遮音耐火間仕切壁のシステム開発

石膏ボードの製造技術支援

工業所有権の出願、管理

機能建材および石膏関連無機系建材の開発

海外製品の国内市場導入

等の研究開発活動を行い、当連結会計年度における研究開発費の実績は2億17百万円（前連結会計年度2億3百万円）となりました。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態の分析

(資産)

資産合計は、351億64百万円（前年同期比3億31百万円減）となりました。

流動資産の減少（前年同期比87百万円減）は、現金及び預金の増加（前年同期比2億70百万円増）がありましたものの、受取手形及び売掛金の減少（前年同期比1億96百万円減）、商品及び製品の減少（前年同期比1億62百万円減）が主な要因であります。

固定資産の減少（前年同期比2億50百万円減）は、当期償却実施等による建物及び構築物の減少（前年同期比1億27百万円減）、長期貸付金の減少（前年同期比1億70百万円減）が主な要因であります。

(負債)

負債合計は、225億28百万円（前年同期比6億64百万円減）となりました。

流動負債の減少（前年同期比6億43百万円減）は、短期借入金の減少（前年同期比4億25百万円減）、1年内返済予定の長期借入金の減少（前年同期比2億96百万円減）が主な要因であります。

固定負債の減少（前年同期比21百万円減）は、社債の増加（前年同期比5億47百万円増）がありましたものの、長期借入金の減少（前年同期比5億9百万円減）、リース債務の減少（前年同期比2億25百万円減）が主な要因であります。

(純資産)

純資産合計は、126億36百万円（前年同期比3億32百万円増）となりました。

これは、配当金の支払がありましたものの、親会社株主に帰属する当期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加（前年同期比3億42百万円増）が主な要因であります。

(2) 経営成績の分析

当連結会計年度の業績は、売上高は308億61百万円（前年同期比3.2%増）となりました。また、営業利益は5億87百万円（前年同期比9.6%増）、経常利益は5億77百万円（前年同期比6.3%増）となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は前期計上した東京支店の譲渡による固定資産売却益の影響により、4億29百万円（前年同期比54.3%減）と減少しました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、17億37百万円と前連結会計年度末に比べ2億45百万円の増加となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な増減要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローにつきましては26億63百万円の資金収入となりました。（前連結会計年度は20億89百万円の資金収入）

これは、法人税等の支払額（2億74百万円）等の資金支出がありましたものの、税金等調整前当期純利益（5億78百万円）、減価償却費（15億73百万円）等の資金収入がありましたことが主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローにつきましては、13億57百万円の資金支出となりました。（前連結会計年度は21億57百万円の資金支出）

これは、貸付金の回収による収入（2億96百万円）等の資金収入がありましたものの、当社における下関工場の石膏焼成設備改造等による有形固定資産の取得による支出（14億92百万円）等の資金支出がありましたことが主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローにつきましては、10億60百万円の資金支出となりました。（前連結会計年度は51百万円の資金収入）

これは、長期借入れによる収入（11億95百万円）、社債の発行による収入（7億87百万円）等の資金収入がありましたものの、長期借入金の返済による支出（20億円）、短期借入金の純増減額の減少（4億25百万円）等の資金支出がありましたことが主な要因であります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度における設備投資の総額は1,221,387千円であり、その主なものは、千葉工場の熱効率改善工事や下関工場の石膏焼成設備改造等であります。

事業の部門別の設備投資について示すと次のとおりであります。

石膏ボード部門

設備投資金額は、1,158,061千円であります。

うち主な概要は次のとおりであります。

事業所名	設備の内容	設備投資の目的	設備投資の金額(千円)
千葉工場	石膏搬送設備改造	焼石膏の品質向上	115,270
下関工場	石膏焼成設備改造	熱源の変更	172,641

その他の部門

設備投資金額は、63,326千円であります。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成29年3月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
		建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	リース資産	その他	合計	
本社工場 (三重県三重郡川越町)	石膏ボード製造設備	1,386,245	849,944	884,209 (99)	19,395	44,699	3,184,494	178 (108)
千葉工場 (千葉県袖ヶ浦市)	石膏ボード製造設備	1,261,245	1,062,085	2,598,573 (61)	43,431	20,356	4,985,691	62 (111)
貝塚工場 (大阪府貝塚市)	石膏ボード製造設備	592,883	684,516	797,754 (35)	4,496	3,447	2,083,098	50 (36)

(注) 1. 帳簿価額には、建設仮勘定の金額を含んでおりません。

2. 従業員数(外書)は、臨時従業員であります。

3. 本社工場には、本社、四日市工場、中部事業部、環境事業本部が属しており、近接する製品倉庫を含めております。

4. 千葉工場には、近接する製品倉庫を含めております。

(2) 国内子会社

主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出 会社	貝塚工場 (大阪府貝塚市)	工場隣接地の取得	1,180,000		自己資金及び借入金	平成29年 4月	平成29年 4月	注1

(注) 1. 不動産を取得するものであり、生産能力の増加はありません。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	32,000,000
計	32,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成29年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,670,000	17,670,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は、 100株であります。
計	17,670,000	17,670,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年8月27日 (注)1	1,350,000	15,470,000	438,750	4,181,950	438,750	4,956,950
平成27年3月3日 (注)2	2,200,000	17,670,000	492,800	4,674,750	492,800	5,449,750

(注) 1. 有償第三者割当 1,350,000株 発行価格 650円 資本組入額 325円

割当先 Knauf International GmbH

2. 有償第三者割当 2,200,000株 発行価格 448円 資本組入額 224円

割当先 (株)晴山

(6) 【所有者別状況】

平成29年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満 株式の状況 (株)	
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		計
					個人以外	個人			
株主数 (人)	1	11	15	145	7	3	816	998	
所有株式数 (単元)	26	9,591	532	72,665	45,279	31	48,561	176,685	
所有株式数 の割合(%)	0.01	5.43	0.30	41.13	25.63	0.02	27.48	100.00	

(注) 自己株式418,600株は、「個人その他」に4,186単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成29年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
Knauf International GmbH	Federal Republic of Germany, 97346 Iphofen, Am Bahnhof 7.	4,491	25.41
株式会社晴山	三重県三重郡川越町高松928番地	2,200	12.45
株式会社平田興産	三重県三重郡川越町高松928番地	1,635	9.25
株式会社ゼロシステム	三重県四日市市住吉町5番10号	1,242	7.03
チヨダ共栄会	三重県三重郡川越町高松928番地	651	3.68
平田美代子	三重県四日市市	634	3.58
基毘商事株式会社	三重県四日市市千代田町288番地	601	3.40
平田晴久	三重県三重郡菟野町	440	2.49
チヨダ取引先持株会	三重県三重郡川越町高松928番地	355	2.01
平田勝己	三重県四日市市	310	1.75
計		12,562	71.09

(注) 1. Knauf International GmbHの常任代理人は、株式会社みずほ銀行決済営業部であります。

2. 上記のほか当社所有の自己株式418千株(2.36%)があります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 418,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式17,249,900	172,499	単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,500		
発行済株式総数	17,670,000		
総株主の議決権		172,499	

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) チヨダウーテ株式会社	三重県四日市市住吉町 15番2号	418,600		418,600	2.36
計		418,600		418,600	2.36

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
取締役会(平成28年8月30日)での決議状況 (取得日 平成28年8月31日)	200,000	94
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	185,000	86
残存決議株式の総数及び価額の総額	15,000	7
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	7.50	7.50
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	7.50	7.50

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を 行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	418,600		418,600	

3 【配当政策】

当社は、株主各位に対する利益還元を最重要政策の一つと位置付け、内部留保の充実により自己資本の向上を図りつつ、安定的な配当を継続することを基本方針としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の年1回を基本方針としております。配当の決定機関は、定時株主総会でありませ

ず。このような方針のもと、業績及び今後の経営環境等を総合的に勘案し、当事業年度の配当金につきましては、前年度と同様の1株当たり普通配当金5円としております。

なお、当社は「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年6月28日 定時株主総会決議	86	5

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第75期	第76期	第77期	第78期	第79期
決算年月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月
最高(円)	579	553	570	554	1,055
最低(円)	413	415	435	427	395

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月15日以前は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、平成25年7月16日以降は東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成28年10月	11月	12月	平成29年1月	2月	3月
最高(円)	464	468	460	473	655	1,055
最低(円)	435	438	440	441	448	601

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		平 田 晴 久	昭和29年 9 月 3 日生	昭和54年11月 当社入社 昭和55年10月 取締役就任 平成 2 年 6 月 常務取締役就任 平成 5 年 4 月 専務取締役就任 平成 7 年 6 月 代表取締役社長就任(現任)	(注) 3	440
取締役副社長	事業本部長	平 田 芳 久	昭和35年11月23日生	昭和63年 3 月 当社入社 平成 9 年 6 月 取締役品質保証本部長就任 平成14年 6 月 常務取締役関西営業部長就任 平成21年 3 月 取締役副社長就任 平成22年11月 チヨダメタルスタッド関西(株)代表 取締役社長就任(現任) 平成25年 4 月 取締役副社長兼事業本部長就任 (現任) 平成28年 6 月 チヨダメタルスタッド中部(株)代表 取締役社長就任(現任)	(注) 3	177
専務取締役	経営企画室 長兼環境事 業本部長	平 田 勝 己	昭和27年 1 月 2 日生	昭和58年 4 月 当社入社 平成 4 年 6 月 取締役中部営業部長就任 平成14年 6 月 常務取締役北海道ブロック長兼北 海道営業部長就任 平成21年 3 月 専務取締役事業本部長兼西部事業 部長就任 平成25年 4 月 専務取締役経営企画室長就任 平成28年 6 月 専務取締役経営企画室長兼環境事 業本部長就任(現任)	(注) 3	310
専務取締役	コーポレ ート戦略開発 担当	クラウス・ケラー	昭和25年 5 月 25 日生	平成 4 年 6 月 CEO of Knauф GmbH Sucursal en Espana 平成16年10月 Head of Knauф-Representation Office in Cuba 平成23年 4 月 Authorized Representative of Knauф-Argentina 平成27年 6 月 当社取締役就任 平成28年 6 月 専務取締役コーポレート戦略開発 担当就任(現任)	(注) 3	
常務取締役	事業本部副 本部長兼事 業推進室長	黒 田 豪 材	昭和30年 9 月 18 日生	昭和53年 3 月 当社入社 平成14年 6 月 取締役生産本部副本部長就任 平成15年 4 月 取締役事業推進室長就任 平成22年12月 チヨダ加工センター(株)代表取締役 社長就任(現任) 平成26年 6 月 常務取締役事業本部副本部長兼事 業推進室長就任(現任)	(注) 3	6
取締役	コーポレ ート事業推進 室長兼新規 事業推進室 長	三 輪 周 美	昭和30年 4 月 9 日生	昭和55年 3 月 当社入社 平成14年 6 月 取締役経理部長就任 平成21年 3 月 取締役管理本部長兼経理部長兼業 務部長就任 平成26年 6 月 取締役コーポレート事業推進室長 兼新規事業推進室長就任(現任) チヨダエクスプレス(株)代表取締役 社長就任(現任) 平成27年 5 月 (株)ピアレックス・テクノロジーズ 代表取締役社長就任	(注) 3	10
取締役	事業本部副 本部長	平 田 富 太郎	昭和54年 4 月 1 日生	平成13年 4 月 当社入社 平成17年 6 月 取締役千葉工場長就任 平成22年12月 取締役環境事業本部長兼事業本部 副本部長兼中部事業部長就任 平成25年 4 月 取締役環境事業本部長兼事業本部 副本部長就任 平成28年 6 月 取締役事業本部副本部長就任(現 任)	(注) 3	65

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	管理本部長 兼業務部長 兼経理部長	種田 貴志	昭和37年1月14日生	昭和60年4月 平成25年10月 平成26年8月	(株)東海銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)入行 当社出向 執行役員管理本部副本部長 取締役管理本部長兼業務部長兼経理部長就任(現任)	(注)3	
取締役		武藤 時裕	昭和28年3月4日生	昭和51年4月 平成20年6月 平成22年6月 平成26年6月 平成28年6月	(株)三重銀行入行 (株)三重銀行取締役兼常務執行役員 内部監査部長就任 (株)三重銀行常勤監査役就任 当社常勤監査役就任 取締役就任(現任)	(注)3	
常勤監査役		片岡 孝之	昭和33年12月4日生	昭和56年3月 平成16年5月 平成28年1月 平成28年6月	当社入社 経理部次長兼経理課課長 経理部次長 常勤監査役就任(現任)	(注)4	2
監査役		疋嶋 伸行	昭和16年7月5日生	昭和35年4月 平成10年6月 平成11年8月 平成16年6月	税務講習所入所 金沢国税局長就任 税理士登録 疋嶋税理士事務所(現任) 当社監査役就任(現任)	(注)4	
監査役		金森 武美	昭和19年7月28日生	昭和38年4月 平成9年7月 平成15年8月 平成18年10月 平成20年6月	税務講習所入所 国税庁長官官房主任国税庁監査官 就任 税理士登録 金森武美税理士事務所(現任) 当社顧問就任 監査役就任(現任)	(注)4	
計							1,013

- (注) 1. 取締役武藤時裕氏は、社外取締役であります。
2. 監査役疋嶋伸行氏及び金森武美氏は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成32年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、経営の基本方針として3つの基本理念（企業理念、ビジョン、ポリシー）を掲げ、コーポレート・ガバナンスの継続的な充実に取り組みます。

また、当社グループの役職員がいかに判断し行動すべきかの指針として、企業倫理規範を制定しています。

そして、役職員が基本理念を常に意識し、企業倫理規範を遵守しながら、持続的な企業価値の向上を目指します。

企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社における企業統治の体制は、取締役会が取締役9名で構成され、原則月1回定期的を開催し、重要な案件については必要に応じ随時取締役会を開催しております。経営の基本方針や法令で定められた事項、その他経営に関する重要な事項を決定するとともに、取締役の業務執行状況を監督する機関として位置づけ運営しております。

なお、取締役の任期を1年とすることで取締役の経営責任をより明確にするとともに、社外取締役1名を選任し、経営監督機能を強化しております。

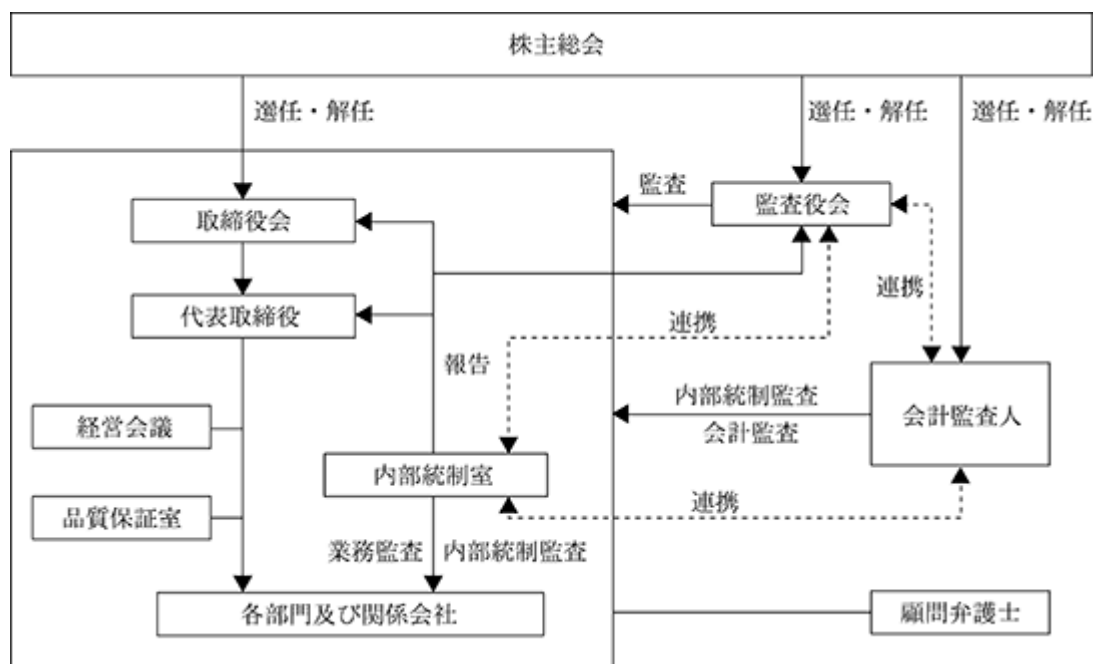
また、取締役（社外取締役を除く）、常勤監査役、部長、支店長及び工場長以上が出席する経営会議を月1回開催し、業務執行に関する重要事項の決定、会社業績に関する進捗状況の報告確認、会社の経営方針等の伝達などを行っております。

当社は、監査役制度を採用し、監査役会は常勤監査役1名と非常勤の社外監査役2名の計3名で構成され、監査役会の開催や取締役会、その他重要な会議に出席するとともに、重要な稟議書の閲覧等により取締役の業務執行の監査を実施しております。なお、業務監査及び財務報告に係る内部統制については、社長直属の内部統制室（2名）を設け監査機能の充実に努めております。

また、顧問契約をしている法律事務所より法律問題全般につきアドバイスを受けております。

当社における以上の体制は、当社のコーポレート・ガバナンス（「コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方」参照）を実現・確保するために実効性があり、適正で効率的な企業経営を行えるものと判断しておりますため、当社は当該ガバナンス体制を採用しております。

□ 会社の機関・内部統制の関係は次のとおりであります。



八 内部統制システムの整備の状況

取締役会で決議しました内部統制システムの基本方針に沿い、その整備を進めております。

当社グループの取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制として、基本理念及び企業倫理規範を定め、これらを記載した「企業理念リーフレット」をグループ会社の役員に配布することにより、その内容の周知徹底を図っております。

また、日常業務を遂行する中で遵守すべき行動基準を定めたコンプライアンスガイドラインを制定し、グループ共通の価値観として共有するよう、諸会議等において周知徹底を図っております。

取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理については、重要会議での議事録、稟議書や契約書など情報等の種類ごとに、各担当部署にて適正に保存及び管理する体制を整えています。

当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制について、当社は、取締役会を原則月1回定期的に開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行っております。

また、グループ会社については、関係会社管理規程に基づき、グループ会社の経営上の重要事項は事前協議を行い、当社取締役会また取締役が承認決裁することにより、グループ会社の経営管理を行っております。

一方で、財務報告の適正性を確保するための体制として、管理本部は適正な会計処理を確保し、財務報告の信頼性を向上させるため、経理業務に関する規程を定めるとともに、財務報告に係る内部統制の体制整備と有効性の向上を図っております。

二 リスク管理体制の整備状況

当社は、リスク管理規程に基づき、取締役会、経営会議、その他重要な会議においてリスク情報の共有化を図り、リスク管理を徹底しております。

内部監査及び監査役監査

内部統制室は各部署について業務監査を行っており、その監査結果は、社長並びに監査役に報告されるなど監査役監査との連携をとりながら内部監査を実施しております。

一方で、監査役は、監査役会規程に基づき監査計画の立案をし、取締役会、その他重要な会議に出席するとともに、重要な稟議書の閲覧等により取締役の業務執行の監査を実施しております。

また、会計監査人との緊密な連携に努めており、定期的に会計監査の実施結果並びに今後の課題について報告を受けるなど随時情報交換を実施しております。

なお、常勤監査役片岡孝之氏は、経理部の管理職を長年務めた経験より、また、社外監査役疋嶋伸行氏、金森武美氏の両名は、税理士資格を有し、長年税理士業務に携わってきたことから、監査役3名は、財務・会計に関し相当程度の知識を有しております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

イ 社外取締役及び社外監査役と当社との人的・資本的・取引関係その他の利害関係

当社の社外取締役は、武藤時裕氏であります。

社外取締役と当社との間に特別な人的関係、資本関係、取引関係、またはその他の利害関係はありません。

当社の社外監査役は、疋嶋伸行氏、金森武美氏であります。

社外監査役と当社との間に特別な人的関係、資本関係、取引関係、またはその他の利害関係はありません。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役の選任に関しては、金融機関に長年勤めた経験と当社で2年間監査役でありましたので、公正中立の立場から経営のチェックを行うことができるという観点から、適切な人物であると判断いたしました。

社外監査役の選任に関しては、専門知識を生かし、公正中立の立場から、当社取締役の職務執行が妥当なものであるかどうかを監査できるという観点から、適切な人物であると判断いたしました。

社外監査役は、取締役会、監査役会に出席し、税理士としての専門的知識及び幅広い見識から、経営全般に対する助言、意見を述べています。また、内部統制室及び会計監査人と連携を取りながら監査役監査を実施しております。

八 社外取締役又は社外監査役の独立性に関する考え方

社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として、明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	143	86		43	13	8
監査役 (社外監査役を除く。)	9	6		1	0	2
社外役員	8	8		0	0	4

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上ある者が存在していないため、記載しておりません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

株主総会で決議された年間報酬限度額の範囲内において、業績等を勘案した上で、各取締役の報酬は取締役会にて、各監査役の報酬は監査役の協議にて決定しております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 39銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,256百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
大和ハウス工業(株)	70,000	221	取引関係等の円滑化のため
大東建託(株)	8,000	127	取引関係等の円滑化のため
コマニー(株)	73,888	111	取引関係等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	171,250	89	取引関係等の円滑化のため
(株)三重銀行	413,105	82	取引関係等の円滑化のため
積水ハウス(株)	41,573	78	取引関係等の円滑化のため
ジューテックホールディングス(株)	93,800	50	取引関係等の円滑化のため
ヤマエ久野(株)	44,801	43	取引関係等の円滑化のため
(株)百五銀行	86,230	36	取引関係等の円滑化のため
初穂商事(株)	123,746	27	取引関係等の円滑化のため
ファースト住建(株)	20,000	26	取引関係等の円滑化のため
パナホーム(株)	30,000	25	取引関係等の円滑化のため

(株)ウッドフレンズ	12,000	24	取引関係等の円滑化のため
J Kホールディングス(株)	34,988	16	取引関係等の円滑化のため
サーラ住宅(株)	20,000	14	取引関係等の円滑化のため
積水化学工業(株)	10,000	13	取引関係等の円滑化のため
北恵(株)	14,085	7	取引関係等の円滑化のため
小松ウォール工業(株)	2,880	5	取引関係等の円滑化のため
名古屋木材(株)	500	0	取引関係等の円滑化のため
石原産業(株)	327	0	取引関係等の円滑化のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
大和ハウス工業(株)	70,000	223	取引関係等の円滑化のため
大東建託(株)	8,000	122	取引関係等の円滑化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	171,250	119	取引関係等の円滑化のため
コマニー(株)	75,489	115	取引関係等の円滑化のため
(株)三重銀行	41,310	97	取引関係等の円滑化のため
積水ハウス(株)	44,916	82	取引関係等の円滑化のため
ジューテックホールディングス(株)	93,800	69	取引関係等の円滑化のため
ヤマエ久野(株)	46,323	52	取引関係等の円滑化のため
初穂商事(株)	132,298	45	取引関係等の円滑化のため
(株)百五銀行	86,230	38	取引関係等の円滑化のため
パナホーム(株)	30,000	30	取引関係等の円滑化のため
ファースト住建(株)	20,000	30	取引関係等の円滑化のため
(株)ウッドフレンズ	12,000	27	取引関係等の円滑化のため
J Kホールディングス(株)	34,988	23	取引関係等の円滑化のため
積水化学工業(株)	10,000	18	取引関係等の円滑化のため
(株)サーラコーポレーション	26,000	16	取引関係等の円滑化のため
北恵(株)	14,085	8	取引関係等の円滑化のため
小松ウォール工業(株)	2,880	5	取引関係等の円滑化のため
名古屋木材(株)	500	0	取引関係等の円滑化のため
石原産業(株)	32	0	取引関係等の円滑化のため

八 保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は仰星監査法人と監査契約を締結しております。定期的監査のほか、その過程で会計上の課題についてはアドバイスを受け会計処理の適正性に努めております。

業務を執行した公認会計士の氏名は、柴田和範、新田泰生、小出修平であります。

なお、会計監査業務に係る補助者は、公認会計士5名、その他3名であります。

剰余金の配当(中間配当)

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、取締役会の決議に基づき、毎年9月30日の最終の株主名簿によって、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)を行うことができる旨を定款に定めております。

自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策を遂行することが可能となるよう、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の責任につき、善意でかつ重大な過失がない場合は、取締役会の決議によって、法令の定める限度額の範囲内で、その責任を免除することができる旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は3名以上とする旨を定款で定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、及び累積投票によらない旨を定款で定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	20		20	
連結子会社				
計	20		20	

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度と当連結会計年度において、該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度と当連結会計年度において、該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士等に対する報酬の額の決定に関する方針を特に定めておりませんが、監査公認会計士等より提示された監査計画、監査内容、監査日程等について、前年度の監査実績等を勘案の上、監査役会の同意を得て決定しております。

第5 【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の財務諸表について、仰星監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等を適正に作成できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書等の購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,652,117	1,922,343
受取手形及び売掛金	5,434,620	5,237,955
商品及び製品	1,339,710	1,176,851
仕掛品	163,432	152,595
原材料及び貯蔵品	1,358,422	1,409,624
繰延税金資産	240,292	232,509
その他	381,828	345,406
貸倒引当金	74,684	69,483
流動資産合計	10,495,742	10,407,803
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,861,568	13,036,211
減価償却累計額	7,642,369	7,944,355
建物及び構築物（純額）	5,219,199	5,091,855
機械装置及び運搬具	23,844,419	25,382,199
減価償却累計額	20,063,059	20,951,406
機械装置及び運搬具（純額）	3,781,359	4,430,793
土地	10,614,529	10,614,529
リース資産	1,868,686	1,795,203
減価償却累計額	511,928	546,485
リース資産（純額）	1,356,758	1,248,718
建設仮勘定	720,298	78,120
その他	690,939	718,689
減価償却累計額	571,503	599,353
その他（純額）	119,436	119,336
有形固定資産合計	² 21,811,582	² 21,583,354
無形固定資産		
投資その他の資産	340,397	264,866
投資有価証券	^{1, 2} 1,360,269	^{1, 2} 1,497,704
長期貸付金	250,711	79,713
繰延税金資産	45,472	53,943
その他	1,208,661	1,285,726
貸倒引当金	29,469	28,319
投資その他の資産合計	2,835,646	2,888,767
固定資産合計	24,987,626	24,736,988
繰延資産		
社債発行費	12,770	19,538
繰延資産合計	12,770	19,538
資産合計	35,496,138	35,164,330

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,782,286	4,116,957
短期借入金	² 4,341,832	² 3,915,905
1年内返済予定の長期借入金	² 1,891,085	² 1,594,765
1年内償還予定の社債	80,000	195,200
未払金	1,610,463	1,367,324
未払法人税等	194,385	78,522
未払消費税等	159,951	162,455
賞与引当金	284,973	300,731
その他	770,044	740,092
流動負債合計	13,115,023	12,471,953
固定負債		
社債	1,180,000	1,727,200
長期借入金	² 5,364,405	² 4,855,144
リース債務	1,279,946	1,054,489
繰延税金負債	150,954	181,423
役員退職慰労引当金	164,431	178,238
関係会社損失引当金	61,000	72,000
退職給付に係る負債	1,243,827	1,316,013
資産除去債務	129,859	132,625
負ののれん	7,655	6,341
持分法適用に伴う負債		15,604
その他	495,006	516,995
固定負債合計	10,077,086	10,056,075
負債合計	23,192,110	22,528,029
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,674,750	4,674,750
資本剰余金	5,475,135	5,475,135
利益剰余金	2,309,275	2,651,769
自己株式	109,243	196,193
株主資本合計	12,349,916	12,605,460
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	269,094	346,564
退職給付に係る調整累計額	323,673	338,768
その他の包括利益累計額合計	54,578	7,796
非支配株主持分	8,690	23,044
純資産合計	12,304,028	12,636,301
負債純資産合計	35,496,138	35,164,330

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
売上高	29,903,805	30,861,916
売上原価	1, 3 19,153,223	1, 3 19,450,907
売上総利益	10,750,581	11,411,009
販売費及び一般管理費	2, 3 10,213,960	2, 3 10,823,091
営業利益	536,620	587,917
営業外収益		
受取利息	11,251	4,552
受取配当金	31,784	35,672
受取賃貸料	85,364	113,477
持分法による投資利益	11,359	
受取燃料費	41,394	39,880
その他	91,361	85,065
営業外収益合計	272,516	278,648
営業外費用		
支払利息	130,775	116,614
持分法による投資損失		64,460
その他	135,015	107,972
営業外費用合計	265,790	289,047
経常利益	543,346	577,518
特別利益		
固定資産売却益	4 637,895	4 7,464
特別利益合計	637,895	7,464
特別損失		
固定資産売却損	5 754	
固定資産除却損	6 1,765	6 4,399
投資有価証券売却損		0
投資有価証券評価損	9,999	1,650
特別損失合計	12,519	6,049
税金等調整前当期純利益	1,168,721	578,933
法人税、住民税及び事業税	209,429	138,401
法人税等調整額	17,929	3,498
法人税等合計	227,358	134,903
当期純利益	941,363	444,030
非支配株主に帰属する当期純利益	537	14,354
親会社株主に帰属する当期純利益	940,825	429,675

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
当期純利益	941,363	444,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	6,986	77,469
退職給付に係る調整額	104,171	15,094
その他の包括利益合計	111,157	62,375
包括利益	830,205	506,405
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	829,667	492,050
非支配株主に係る包括利益	537	14,354

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,674,750	5,479,135	1,455,631	109,243	11,500,273
当期変動額					
剰余金の配当			87,182		87,182
親会社株主に帰属する当期純利益			940,825		940,825
自己株式の取得					
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		4,000			4,000
連結子会社の増加による非支配株主持分の増減					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		4,000	853,643		849,643
当期末残高	4,674,750	5,475,135	2,309,275	109,243	12,349,916

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	276,080	219,501	56,578		11,556,852
当期変動額					
剰余金の配当					87,182
親会社株主に帰属する当期純利益					940,825
自己株式の取得					
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					4,000
連結子会社の増加による非支配株主持分の増減				8,152	8,152
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	6,986	104,171	111,157	537	110,619
当期変動額合計	6,986	104,171	111,157	8,690	747,176
当期末残高	269,094	323,673	54,578	8,690	12,304,028

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,674,750	5,475,135	2,309,275	109,243	12,349,916
当期変動額					
剰余金の配当			87,182		87,182
親会社株主に帰属する当期純利益			429,675		429,675
自己株式の取得				86,950	86,950
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					
連結子会社の増加による非支配株主持分の増減					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計			342,493	86,950	255,543
当期末残高	4,674,750	5,475,135	2,651,769	196,193	12,605,460

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	269,094	323,673	54,578	8,690	12,304,028
当期変動額					
剰余金の配当					87,182
親会社株主に帰属する当期純利益					429,675
自己株式の取得					86,950
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					
連結子会社の増加による非支配株主持分の増減					
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	77,469	15,094	62,375	14,354	76,729
当期変動額合計	77,469	15,094	62,375	14,354	332,273
当期末残高	346,564	338,768	7,796	23,044	12,636,301

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,168,721	578,933
減価償却費	1,492,327	1,573,989
負ののれん償却額	1,314	1,314
社債発行費償却	4,798	5,688
貸倒引当金の増減額(は減少)	15,929	6,349
賞与引当金の増減額(は減少)	26,897	15,757
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	74,347	57,328
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	13,599	13,806
関係会社損失引当金の増減額(は減少)	10,000	11,000
受取利息及び受取配当金	43,035	40,224
支払利息	130,775	116,614
持分法による投資損益(は益)	11,359	64,460
固定資産除売却損益(は益)	635,375	3,065
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	9,999	1,650
売上債権の増減額(は増加)	137,122	196,665
たな卸資産の増減額(は増加)	29,953	122,493
仕入債務の増減額(は減少)	204,753	334,671
未払消費税等の増減額(は減少)	38,148	2,504
その他の資産の増減額(は増加)	51,611	83,728
その他の負債の増減額(は減少)	116,200	52,750
小計	2,289,512	3,013,631
利息及び配当金の受取額	43,937	39,393
利息の支払額	128,107	115,054
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	115,448	274,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,089,894	2,663,629
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	34,498	24,505
定期預金の払戻による収入	200,000	
有形固定資産の取得による支出	3,126,819	1,492,811
有形固定資産の売却による収入	978,722	15,429
投資有価証券の取得による支出	46,625	12,428
投資有価証券の売却による収入		1
貸付けによる支出	118,658	59,588
貸付金の回収による収入	145,144	296,692
子会社株式の取得による支出	67,760	65,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	51,390	
その他	35,468	15,597
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,157,353	1,357,808

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	931,322	425,926
長期借入れによる収入	3,327,994	1,195,000
長期借入金の返済による支出	2,139,006	2,000,581
社債の発行による収入		787,543
社債の償還による支出	80,000	137,600
自己株式の取得による支出		87,123
配当金の支払額	87,254	87,326
リース債務の返済による支出	220,937	304,085
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	4,000	
その他	186,217	
財務活動によるキャッシュ・フロー	51,690	1,060,101
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	15,768	245,719
現金及び現金同等物の期首残高	1,507,190	1,491,421
現金及び現金同等物の期末残高	1 1,491,421	1 1,737,141

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数及び名称

10社

東京総合資材(株)

チヨダエクスプレス(株)

チヨダグリーンセラ(株)

東海エクスプレス(株)

東京アークシステム(株)

チヨダセラ(株)

チヨダメタルスタッド中部(株)

チヨダメタルスタッド関西(株)

チヨダ加工センター(株)

(株)ピアレックス・テクノロジーズ

(2) 非連結子会社の名称

道南物流(有)

チヨダセラ販売(株)

コウヨウ(株)

チヨダリノベート(株)

ソントン・ジャパン(株)

(株)エバサービス

(株)チヨダテクノソイル

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数及び名称

1社

(株)トクヤマ・チヨダジブサム

(2) 持分法を適用しない非連結子会社及び関連会社の名称

(非連結子会社)

道南物流(有)

チヨダセラ販売(株)

コウヨウ(株)

チヨダリノベート(株)

ソントン・ジャパン(株)

(株)エバサービス

(株)チヨダテクノソイル

(関連会社)

(株)中部建材センター

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性が乏しいため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

たな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

a 製品・仕掛品

総平均法による原価法

b 商品・原材料・貯蔵品

先入先出法による原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

建物 当社は定額法

連結子会社は定率法

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)については、定額法

その他 定率法

但し、当社岡山工場等3工場、チヨダセラ(株)及びチヨダ加工センター(株)は定額法

また、平成28年4月1日以降に取得した構築物については定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 7～50年

機械装置及び運搬具 4～12年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

長期前払費用

均等償却

(3) 重要な繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間にわたる定額法

(4) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職金の支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を引当計上しております。

なお、連結子会社については、役員退職慰労金規程がないため、計上しておりません。

関係会社損失引当金

関係会社に対する将来の損失に備えるため、当該会社の財政状態及び回収可能性を勘案し、必要額を計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異、過去勤務費用及び会計基準変更時差異の費用処理方法

会計基準変更時差異（11,886千円）は、15年による定額法により費用処理しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、すべて特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
金利スワップ	借入金

ヘッジ方針

変動金利を固定金利に変換する目的で金利スワップ取引を利用しているのみであります。投機目的の取引及びレバレッジ効果の高いデリバティブ取引は行わない方針であります。

ヘッジの有効性評価の方法

すべての取引が、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。なお、「負のれん」につきましては、20年間で均等償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

税抜き方式によっております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当連結会計年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当連結会計年度において、連結財務諸表への影響額は軽微であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外費用」の「退職給付費用」は、営業外費用の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」に表示していた「退職給付費用」44,853千円、「その他」90,161千円は、「その他」135,015千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

(連結貸借対照表関係)

1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
投資有価証券(株式)	160,115千円	176,260千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
建物及び構築物	2,267,872千円	2,245,229千円
機械装置	2,317,454千円	2,391,016千円
土地	2,122,474千円	2,122,474千円
投資有価証券	35,870千円	37,740千円
計	6,743,671千円	6,796,461千円

上記のうち、工場財団設定分

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
建物及び構築物	2,182,756千円	2,168,947千円
機械装置	2,317,454千円	2,391,016千円
土地	1,737,808千円	1,737,808千円
計	6,238,018千円	6,297,772千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
短期借入金	68,000千円	78,000千円
1年内返済予定の長期借入金	1,607,889千円	1,220,396千円
長期借入金	4,055,756千円	3,221,080千円
計	5,731,645千円	4,519,476千円

3 保証債務

次の関係会社のリース会社との契約について、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
(株)トクヤマ・チヨダジブサム	千円	653,046千円

4 受取手形割引高、受取手形裏書譲渡高及び債権流動化残高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
受取手形割引高	125,290千円	109,140千円
受取手形裏書譲渡高	2,590千円	3,237千円
手形債権流動化残高	2,155,267千円	2,170,748千円

信託手形債権が取立不能等の場合においてのみ手形債権の買戻し義務が発生する特約となっております。

電子記録債権流動化残高 80,158千円 79,461千円

電子記録債権が支払不能等の場合においてのみ電子記録債権の買戻し義務が発生する特約となっております。

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損（洗替え法）が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
	22,004千円	16,903千円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
運賃	6,415,301千円	6,821,761千円
貸倒引当金繰入額	千円	2,351千円
給料・賞与	1,215,882千円	1,284,210千円
賞与引当金繰入額	147,713千円	151,434千円
退職給付費用	95,751千円	104,378千円
役員退職慰労引当金繰入額	13,599千円	14,689千円
減価償却費	123,400千円	204,405千円

- 3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
	203,998千円	217,673千円

- 4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	7,653千円	千円
機械装置及び運搬具	1,699千円	7,464千円
土地	643,848千円	千円
計	637,895千円	7,464千円

(注) 同一物件の売買契約において、科目別では売却益と売却損がそれぞれ発生した場合、当該同一物件の売却損益は純額にて固定資産売却益に計上しております。

- 5 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
機械装置及び運搬具	754千円	千円
計	754千円	千円

- 6 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物及び構築物	350千円	3,356千円
機械装置及び運搬具	179千円	128千円
その他	1,236千円	915千円
計	1,765千円	4,399千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	19,164千円	110,513千円
組替調整額	千円	0千円
税効果調整前	19,164千円	110,513千円
税効果額	12,178千円	33,043千円
その他有価証券評価差額金	6,986千円	77,469千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	163,068千円	45,107千円
組替調整額	59,529千円	30,250千円
税効果調整前	103,539千円	14,857千円
税効果額	631千円	236千円
退職給付に係る調整額	104,171千円	15,094千円
その他の包括利益合計	111,157千円	62,375千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	17,670,000			17,670,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	233,600			233,600

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	87,182	5.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	87,182	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	17,670,000			17,670,000

2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	233,600	185,000		418,600

(変動事由の概要)

平成28年8月30日開催の取締役会決議による自己株式の取得 185,000株

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	87,182	5.00	平成28年3月31日	平成28年6月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	86,257	5.00	平成29年3月31日	平成29年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
	現金及び預金勘定	1,652,117千円		1,922,343千円
預入期間が3か月を超える定期預金	160,695千円		185,201千円	
現金及び現金同等物	1,491,421千円		1,737,141千円	

2 重要な非資金取引の内容

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、260,940千円であります。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

当連結会計年度に新たに計上したファイナンス・リース取引に係る資産及び負債の額は、84,038千円であります。

(リース取引関係)

1.ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備(機械及び装置)であります。

(2)リース資産の減価償却の方法

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産

主として、生産設備(機械装置及び運搬具)であります。

無形固定資産

主として、ソフトウェアであります。

(2)リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入や社債発行)を調達しております。また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブは、金利変動リスクのヘッジ及び支払金利の軽減を主眼とし、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクについては、顧客の信用状況を定期的に把握するとともに、債権残高を随時把握することを通じてリスクの軽減を図っております。投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価を管理本部長に報告しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。借入金、社債及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に必要な資金の調達を目的としたものであり、償還日は決算日後、最長で13年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、売上債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の売上債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、借入金に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、満期保有目的の債券以外のものについては、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「2. 金融商品の時価等に関する事項」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません(注2)を参照ください。)

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,652,117	1,652,117	
(2) 受取手形及び売掛金	5,434,620	5,434,620	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	1,032,904	1,032,904	
資産計	8,119,642	8,119,642	
(1) 支払手形及び買掛金	3,782,286	3,782,286	
(2) 短期借入金	4,341,832	4,341,832	
(3) 未払金	1,610,463	1,610,463	
(4) 未払法人税等	194,385	194,385	
(5) 未払消費税等	159,951	159,951	
(6) 社債	1,260,000	1,274,891	14,891
(7) 長期借入金	7,255,490	7,306,679	51,188
(8) リース債務	1,575,561	1,621,474	45,912
負債計	20,179,971	20,291,965	111,993
デリバティブ取引			

なお、社債は1年内償還予定の社債を含めた金額、長期借入金及びリース債務は1年内返済予定分を含めた金額で表示しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	1,922,343	1,922,343	
(2) 受取手形及び売掛金	5,237,955	5,237,955	
(3) 投資有価証券 其他有価証券	1,155,844	1,155,844	
資産計	8,316,143	8,316,143	
(1) 支払手形及び買掛金	4,116,957	4,116,957	
(2) 短期借入金	3,915,905	3,915,905	
(3) 未払金	1,367,324	1,367,324	
(4) 未払法人税等	78,522	78,522	
(5) 未払消費税等	162,455	162,455	
(6) 社債	1,922,400	1,923,729	1,329
(7) 長期借入金	6,449,909	6,462,152	12,243
(8) リース債務	1,348,776	1,426,367	77,590
負債計	19,362,250	19,453,413	91,163
デリバティブ取引			

なお、社債は1年内償還予定の社債を含めた金額、長期借入金及びリース債務は1年内返済予定分を含めた金額で表示しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は証券取引所公表の価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金、及び(3) 未払金、(4) 未払法人税等、(5) 未払消費税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(6) 社債、及び(7) 長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。変動金利による長期借入金は、金利スワップの特例処理の対象とされており(下記「デリバティブ取引」参照)、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を同様の借入を行った場合に適用される合理的に見積られる利率で割り引いて算定する方法によっております。

(8) リース債務

リース債務の時価は、リース支払料の合計額を新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載してあります。(上記(7)参照)

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

区分	平成28年3月31日	平成29年3月31日
非上場株式	327,365千円	341,860千円

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積ることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,652,117			
受取手形及び売掛金	5,434,620			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
合計	7,086,738			

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,922,343			
受取手形及び売掛金	5,237,955			
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
合計	7,160,298			

(注4)社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
社債	80,000	80,000	1,100,000			
長期借入金	1,891,085	1,442,777	1,070,952	1,417,720	496,290	936,666
リース債務	295,614	278,030	234,206	136,802	113,987	516,919
その他の有利子負債						
合計	2,266,700	1,800,807	2,405,158	1,554,522	610,277	1,453,585

当連結会計年度(平成29年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
社債	195,200	1,215,200	115,200	115,200	115,200	166,400
長期借入金	1,594,765	1,230,000	1,603,972	620,448	551,440	849,284
リース債務	294,287	250,462	153,221	127,199	103,761	419,844
その他の有利子負債						
合計	2,084,252	2,695,662	1,872,393	862,847	770,401	1,435,528

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	817,003	391,963	425,039
債券			
その他	28,174	25,360	2,814
小計	845,177	417,323	427,854
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	187,726	231,708	43,981
債券			
その他			
小計	187,726	231,708	43,981
合計	1,032,904	649,031	383,872

当連結会計年度(平成29年3月31日)

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	942,337	435,505	506,832
債券			
その他	27,152	25,360	1,792
小計	969,490	460,865	508,624
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	186,354	200,593	14,238
債券			
その他			
小計	186,354	200,593	14,238
合計	1,155,844	661,458	494,385

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自平成27年4月1日至平成28年3月31日)

当連結会計年度において、有価証券について9,999千円の減損処理を行っております。

当連結会計年度(自平成28年4月1日至平成29年3月31日)

当連結会計年度において、有価証券について1,650千円の減損処理を行っております。

有価証券の減損処理の基準について

『金融商品会計に関する実務指針』に基づき、厳格に個別銘柄の回復可能性を判定し、以下の基準で減損処理を実施しております。

- 時価の下落率 50%以上 : 短期的に時価が回復すると認められる場合を除いて、原則として減損処理をする。
- 時価の下落率 30%~50% : 過去の時価の推移・信用リスク評価等を加味し、株価の回復可能性がないと判定した銘柄は減損処理をする。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

該当事項はありません。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成28年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額のうち1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	3,682,264	2,472,500	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成29年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等(千円)	契約額のうち1年超(千円)	時価(千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	3,043,940	2,146,156	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として、確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を設けており、連結子会社の一部は退職一時金制度を設けまたは中小企業退職共済制度に加入しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
退職給付債務の期首残高	1,678,464千円	1,890,030千円
勤務費用	136,593千円	160,536千円
利息費用	17,278千円	千円
数理計算上の差異の発生額	158,693千円	44,434千円
退職給付の支払額	104,162千円	80,037千円
新規連結に伴う退職給付債務の増加	3,162千円	千円
その他	千円	6,291千円
退職給付債務の期末残高	1,890,030千円	2,008,673千円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
年金資産の期首残高	612,523千円	646,202千円
期待運用収益	9,069千円	9,526千円
数理計算上の差異の発生額	4,374千円	673千円
事業主からの拠出額	61,121千円	66,762千円
退職給付の支払額	35,299千円	29,158千円
新規連結に伴う年金資産の増加	3,162千円	千円
年金資産の期末残高	646,202千円	692,659千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	763,270千円	810,385千円
年金資産	646,202千円	692,659千円
	117,067千円	117,725千円
非積立型制度の退職給付債務	1,126,759千円	1,198,288千円
連結貸借対照表に計上された負債の純額	1,243,827千円	1,316,013千円
退職給付に係る負債	1,243,827千円	1,316,013千円
連結貸借対照表に計上された負債の純額	1,243,827千円	1,316,013千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
勤務費用	136,593千円	160,536千円
利息費用	17,278千円	千円
期待運用収益	9,069千円	9,526千円
数理計算上の差異の費用処理額	20,891千円	35,673千円
過去勤務費用の費用処理額	6,216千円	6,216千円
会計基準変更時差異の費用処理額	44,853千円	792千円
確定給付制度に係る退職給付費用	204,332千円	181,260千円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
過去勤務費用	6,216千円	6,216千円
数理計算上の差異	142,176千円	9,433千円
会計基準変更時差異	44,853千円	792千円
合計	103,539千円	14,857千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
未認識過去勤務費用	29,393千円	23,176千円
未認識数理計算上の差異	352,511千円	361,945千円
会計基準変更時差異の未処理額	792千円	千円
合計	323,910千円	338,768千円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
一般勘定	100%	100%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしております。）

	前連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
割引率	0.0%	0.0%
長期期待運用収益率	1.5%	1.5%

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	49,165千円	53,293千円
退職給付に係る負債	274,694千円	292,240千円
貸倒引当金	23,719千円	21,184千円
繰越欠損金	481,577千円	370,212千円
賞与引当金	86,260千円	90,520千円
子会社への固定資産売却に係る一時差異	59,862千円	59,862千円
投資有価証券・会員権評価損	30,145千円	29,607千円
関連会社株式評価損	2,990千円	2,990千円
減損損失	207,155千円	132,724千円
資産除去債務	38,827千円	39,654千円
関係会社損失引当金	18,239千円	21,528千円
退職給付に係る調整累計額	96,849千円	101,291千円
その他	56,233千円	51,268千円
繰延税金資産小計	1,425,720千円	1,266,378千円
評価性引当額	1,139,954千円	979,842千円
繰延税金資産合計	285,765千円	286,535千円
繰延税金負債		
資産圧縮記帳積立金	25,709千円	24,573千円
その他有価証券評価差額金	114,777千円	147,821千円
資産除去債務	2,836千円	1,398千円
その他	7,630千円	7,713千円
繰延税金負債合計	150,954千円	181,506千円
繰延税金資産の純額	134,811千円	105,029千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.3%	30.1%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5%	4.9%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0%	0.4%
住民税均等割	2.7%	5.5%
評価性引当額の増減	18.8%	18.1%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.4%	%
その他	0.6%	1.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	19.5%	23.3%

(企業結合等関係)

記載すべき重要な事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

工場用土地の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から19年と見積り、割引率は2.13%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
期首残高	127,150千円	129,859千円
時の経過による調整額	2,708千円	2,765千円
期末残高	129,859千円	132,625千円

(賃貸等不動産関係)

当社グループは、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、賃貸等不動産に関する注記事項の記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの事業は、石膏ボードを中心とする建築内装材料の製造、販売を主に、これらに付帯する一切の事業を行っている単一事業であります。

したがって、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

石膏ボード及び石膏ボード関連の製品・サービスの外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三井住商建材株式会社	3,871,340	石膏ボード他建築資材

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

石膏ボード及び石膏ボード関連の製品・サービスの外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
SMB建材株式会社	4,473,220	石膏ボード他建築資材

(注) 三井住商建材株式会社は、平成29年1月1日付で、SMB建材株式会社に社名を変更しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	石膏ボード他建築資材	全社・消去	合計
(のれん)			
当期償却額	23,515		23,515
当期末残高	57,142		57,142
(負ののれん)			
当期償却額	1,314		1,314
当期末残高	7,655		7,655

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	石膏ボード他建築資材	全社・消去	合計
(のれん)			
当期償却額	16,031		16,031
当期末残高	41,110		41,110
(負ののれん)			
当期償却額	1,314		1,314
当期末残高	6,341		6,341

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	㈱トクヤマ・ チヨダジブサム	三重県 三重郡	95,000	廃石膏ボードの リサイクル事業	(所有) 直接49.0	倉庫等の賃貸 役員の兼任	建物賃貸料等 蒸気使用料等	14,431 41,394	未収入金 前受収益	5,738 1,298

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額及び期末残高は消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) ㈱トクヤマ・チヨダジブサムへの倉庫等の賃貸料については、近隣の取引実勢に基づいて決定しております。
- (2) ㈱トクヤマ・チヨダジブサムへの蒸気使用料等については、市場価格を勘案のうえ協議して決定しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	㈱トクヤマ・ チヨダジブサム	三重県 三重郡	95,000	廃石膏ボードの リサイクル事業	(所有) 直接49.0	倉庫等の賃貸 債務保証 役員の兼任	建物賃貸料等 蒸気使用料等 債務保証	14,321 39,880 653,046	未収入金 前受収益	6,147 1,255

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額及び期末残高は消費税等を含まず表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) ㈱トクヤマ・チヨダジブサムへの倉庫等の賃貸料については、近隣の取引実勢に基づいて決定しております。
- (2) ㈱トクヤマ・チヨダジブサムへの蒸気使用料等については、市場価格を勘案のうえ協議して決定しております。
- (3) ㈱トクヤマ・チヨダジブサムのリース会社との契約について、債務保証を行っております。なお、債務保証に対する保証料の受取りは行っておりません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

該当事項はありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
取締役及び取締役 の近親者が議決権 の過半数を所有し ている会社等(当 該会社等の子会社 を含む)	㈱ゼロシステム	三重県 四日市市	85,000 千円	石油類等の 販売	(被所有) 直接 7.1	燃料等の購入	燃料等の購入	696,894	買掛金 未払金 支払手形	7,560 63,701 198,122

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) ㈱ゼロシステムからの燃料等の購入については、市場価格を勘案のうえ協議して決定しております。
- (2) ㈱ゼロシステムは、当社の取締役及び取締役の近親者が議決権の92.3%を所有しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
取締役及び取締役 の近親者が議決権 の過半数を所有し ている会社等(当 該会社等の子会社 を含む)	㈱ゼロシステム	三重県 四日市市	85,000 千円	石油類等の 販売	(被所有) 直接 7.2	燃料等の購入	燃料等の購入	712,703	買掛金 未払金 支払手形	5,443 64,438 198,282
役員 の近 親者	大池 久代				(被所有) 直接 1.7		自己株式の取 得	56,400		

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) ㈱ゼロシステムからの燃料等の購入については、市場価格を勘案のうえ協議して決定しております。
- (2) ㈱ゼロシステムは、当社の取締役及び取締役の近親者が議決権の92.3%を所有しております。
- (3) 自己株式の取得については、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNet-3)により取得しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
取締役及び取締役の近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	(株)ゼロシステム	三重県 四日市市	85,000	石油類等の販売	(被所有) 直接 7.1	燃料等の購入	燃料等の購入	30,919	未払金	2,521
役員	平田 晴久			当社代表取締役社長	(被所有) 直接 2.5 間接 9.2 [12.6] (注2)	債務被保証(注3)	銀行借入に対する債務被保証	50,000		
役員	平田 芳久			当社取締役副社長兼チヨダメタルスタッド関西(株)代表取締役社長	(被所有) 直接 1.0	債務被保証(注4)	銀行借入に対する債務被保証	70,480		
役員	三輪 周美			当社取締役兼(株)ピアレックス・テクノロジーズ代表取締役社長	(被所有) 直接 0.0	債務被保証(注5)	銀行借入に対する債務被保証	83,000		
役員 の近親者	平田 耕一			連結子会社顧問	(被所有) 直接 0.0		顧問料の支払	16,800		

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。
2. 議決権等の被所有割合の[]内は、緊密な者または同意している者の所有割合で外数であります。
3. 当社連結子会社チヨダセラ(株)は、銀行借入に対して、当社代表取締役社長平田晴久より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
4. 当社連結子会社チヨダメタルスタッド関西(株)は、大阪信用保証協会による保証付き銀行借入に対して、同社代表取締役社長平田芳久より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
5. 当社連結子会社(株)ピアレックス・テクノロジーズは、銀行借入に対して、同社代表取締役社長三輪周美より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
6. 取引条件及び取引条件の決定方針等
(1) (株)ゼロシステムからの燃料等の購入については、市場価格を助案のうえ協議して決定しております。
(2) (株)ゼロシステムは、当社の取締役及び取締役の近親者が議決権の92.3%を所有しております。
(3) 平田耕一氏の顧問料は、顧問としての業務内容を助案の上、各連結子会社にて決定しております。

当連結会計年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
取締役及び取締役の近親者が議決権の過半数を所有している会社等(当該会社等の子会社を含む)	(株)ゼロシステム	三重県 四日市市	85,000	石油類等の販売	(被所有) 直接 7.2	燃料等の購入	燃料等の購入	29,471	未払金	3,123
役員	平田 晴久			当社代表取締役社長	(被所有) 直接 2.5 間接 9.4 [12.7] (注2)	債務被保証(注3)	銀行借入に対する債務被保証	42,308		
役員	平田 芳久			当社取締役副社長兼チヨダメタルスタッド関西(株)代表取締役社長	(被所有) 直接 1.0	債務被保証(注4)	銀行借入に対する債務被保証	75,240		
役員 の近親者	平田 耕一			連結子会社顧問	(被所有) 直接 0.0		顧問料の支払	16,800		

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高は消費税等を含んで表示しております。
2. 議決権等の被所有割合の[]内は、緊密な者または同意している者の所有割合で外数であります。
3. 当社連結子会社チヨダセラ(株)は、銀行借入に対して、当社代表取締役社長平田晴久より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
4. 当社連結子会社チヨダメタルスタッド関西(株)は、大阪信用保証協会による保証付き銀行借入に対して、同社代表取締役社長平田芳久より債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。
5. 取引条件及び取引条件の決定方針等
(1) (株)ゼロシステムからの燃料等の購入については、市場価格を助案のうえ協議して決定しております。
(2) (株)ゼロシステムは、当社の取締役及び取締役の近親者が議決権の92.3%を所有しております。
(3) 平田耕一氏の顧問料は、顧問としての業務内容を助案の上、各連結子会社にて決定しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

項目	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
1株当たり純資産額	705円15銭	731円14銭
1株当たり当期純利益金額	53円96銭	24円79銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益	940,825千円	429,675千円
普通株主に帰属しない金額	千円	千円
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益	940,825千円	429,675千円
普通株式の期中平均株式数	17,436,400株	17,331,482株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
チヨダウーテ(株)	第10回無担保社債(株式会社三井住友銀行保証付・適格機関投資家限定)	平成24年 12月28日	160,000	80,000 (80,000)	0.44		平成29年 12月29日
チヨダウーテ(株)	第11回無担保社債(株式会社百五銀行保証付・適格機関投資家限定)	平成25年 12月10日	300,000	300,000	0.58		平成30年 12月10日
チヨダウーテ(株)	第12回無担保社債(株式会社三重銀行保証付・適格機関投資家限定)	平成26年 1月27日	500,000	500,000	0.55		平成31年 1月25日
チヨダウーテ(株)	第13回無担保社債(株式会社百五銀行保証付・適格機関投資家限定)	平成26年 3月25日	300,000	300,000	0.53		平成31年 3月25日
チヨダウーテ(株)	第14回無担保社債(株式会社三菱東京UFJ銀行・適格機関投資家限定)	平成28年 9月30日		742,400 (115,200)	0.43		平成35年 9月29日
合計			1,260,000	1,922,400 (195,200)			

(注) 1. 「当期末残高」欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
195,200	1,215,200	115,200	115,200	115,200

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,341,832	3,915,905	0.83	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,891,085	1,594,765	1.05	
1年以内に返済予定のリース債務	295,614	294,287		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,364,405	4,855,144	1.05	平成30年～平成37年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,279,946	1,054,489		平成30年～平成42年
その他有利子負債				
合計	13,172,884	11,714,591		

(注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。

3. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,230,000	1,603,972	620,448	551,440
リース債務	250,462	153,221	127,199	103,761

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	6,935,186	14,522,467	22,670,200	30,861,916
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額又は 税金等調整前四半期 純損失金額 () (千円)	52,938	14,134	318,732	578,933
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失金額 () (千円)	76,976	26,555	220,922	429,675
1株当たり四半期 (当期)純利益金額又は 1株当たり四半期 純損失金額 () (円)	4.41	1.53	12.73	24.79

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額 () (円)	4.41	2.90	14.35	12.10

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,058,945	1,059,506
受取手形	1 1,302,980	1 1,345,122
売掛金	1 3,569,442	1 3,356,218
商品及び製品	1,040,298	893,467
仕掛品	150,130	135,241
原材料及び貯蔵品	1,264,614	1,304,068
前払費用	37,856	34,309
繰延税金資産	217,942	212,400
その他	793,329	804,600
貸倒引当金	600	
流動資産合計	9,434,941	9,144,935
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	4,566,403	4,455,912
構築物（純額）	586,059	564,705
機械及び装置（純額）	3,422,994	4,038,642
車両運搬具（純額）	15,316	25,602
工具、器具及び備品（純額）	112,247	110,559
土地	10,435,884	10,435,884
リース資産（純額）	1,269,961	1,167,753
建設仮勘定	701,614	66,809
有形固定資産合計	2 21,110,482	2 20,865,871
無形固定資産		
のれん	12,000	6,000
ソフトウェア	20,342	15,089
ソフトウェア仮勘定	2,790	7,290
リース資産	211,023	142,764
その他	20,315	18,581
無形固定資産合計	266,471	189,725
投資その他の資産		
投資有価証券	2 1,162,354	2 1,283,644
関係会社株式	314,495	379,495
出資金	190	190
長期貸付金	79,498	62,806
従業員に対する長期貸付金	10,293	9,906
関係会社長期貸付金	569,509	368,829
長期前払費用	17,744	10,729
その他	1,164,844	1,245,203
貸倒引当金	240,519	239,319
投資その他の資産合計	3,078,410	3,121,486
固定資産合計	24,455,364	24,177,083
繰延資産		
社債発行費	12,770	19,538
繰延資産合計	12,770	19,538
資産合計	33,903,076	33,341,558

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1 2,388,649	1 2,557,676
買掛金	1 920,175	1 1,036,714
短期借入金	3,838,138	3,354,905
1年内返済予定の長期借入金	2 1,816,202	2 1,505,896
リース債務	227,770	226,816
未払金	1,453,270	1,211,393
未払費用	204,938	209,765
未払法人税等	145,772	52,182
前受金		6,527
預り金	18,488	19,328
前受収益	2,090	2,047
賞与引当金	217,600	229,000
その他	341,983	420,313
流動負債合計	11,575,079	10,832,566
固定負債		
社債	1,180,000	1,727,200
長期借入金	2 5,078,496	2 4,529,740
リース債務	1,142,373	960,799
繰延税金負債	143,324	173,793
退職給付引当金	809,771	854,543
役員退職慰労引当金	164,431	178,238
関係会社損失引当金	762,000	769,000
資産除去債務	129,859	132,625
その他	484,206	504,195
固定負債合計	9,894,461	9,830,135
負債合計	21,469,541	20,662,702
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,674,750	4,674,750
資本剰余金		
資本準備金	5,449,750	5,449,750
その他資本剰余金	29,385	29,385
資本剰余金合計	5,479,135	5,479,135
利益剰余金		
利益準備金	780,000	780,000
その他利益剰余金		
資産圧縮積立金	60,275	57,612
別途積立金	3,080,000	3,080,000
繰越利益剰余金	1,800,476	1,543,011
利益剰余金合計	2,119,799	2,374,600
自己株式	109,243	196,193
株主資本合計	12,164,440	12,332,291
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	269,094	346,564
評価・換算差額等合計	269,094	346,564
純資産合計	12,433,535	12,678,856
負債純資産合計	33,903,076	33,341,558

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)	当事業年度 (自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日)
売上高		
製品売上高	23,345,255	24,053,133
商品売上高	3,732,261	3,818,468
売上高合計	27,077,516	27,871,602
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	1,073,711	1,040,298
当期商品仕入高	3,491,815	3,569,395
当期製品製造原価	13,629,870	13,728,270
合計	18,195,398	18,337,964
商品及び製品期末たな卸高	1,040,298	893,467
売上原価合計	¹ 17,155,099	¹ 17,444,496
売上総利益	9,922,416	10,427,105
販売費及び一般管理費	^{1, 2} 9,591,643	^{1, 2} 10,085,271
営業利益	330,773	341,834
営業外収益		
受取利息	26,822	20,036
受取配当金	31,783	35,670
受取賃貸料	84,230	112,031
受取燃料費	41,394	39,880
その他	64,287	79,804
営業外収益合計	¹ 248,518	¹ 287,423
営業外費用		
支払利息	121,726	106,809
退職給付費用	42,887	
賃貸費用	5,360	22,244
関係会社損失引当金繰入額	10,000	7,000
その他	65,925	68,695
営業外費用合計	245,900	204,749
経常利益	333,391	424,508
特別利益		
固定資産売却益	³ 636,195	³ 4,746
特別利益合計	636,195	4,746
特別損失		
固定資産売却損	⁴ 754	
固定資産除却損	⁵ 1,236	⁵ 4,345
投資有価証券売却損		0
投資有価証券評価損	9,999	1,650
関係会社損失引当金繰入額	186,000	
特別損失合計	197,990	5,996
税引前当期純利益	771,596	423,258
法人税、住民税及び事業税	145,403	78,307
法人税等調整額	21,739	2,967
法人税等合計	167,142	81,275
当期純利益	604,453	341,982

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)		当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	6,393,202	46.8	6,494,316	47.4
労務費		1,324,967	9.7	1,361,081	9.9
経費		5,948,803	43.5	5,860,059	42.7
当期総製造費用		13,666,973	100.0	13,715,458	100.0
仕掛品期首たな卸高		115,914		150,130	
合計		13,782,887		13,865,588	
仕掛品期末たな卸高		150,130		135,241	
他勘定振替高	2	2,886		2,077	
当期製品製造原価		13,629,870		13,728,270	

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
減価償却費	1,149,116	1,197,222
外注加工費	1,390,879	1,371,691
燃料費	933,430	869,233
動力費	719,038	634,957

2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
試験研究費	2,678	2,045
その他	208	31
計	2,886	2,077

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、総合原価計算であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,674,750	5,449,750	29,385	5,479,135
当期変動額				
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加				
資産圧縮積立金の取崩				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	4,674,750	5,449,750	29,385	5,479,135

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	780,000	61,645	3,080,000	2,319,117	1,602,527
当期変動額					
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加		1,439		1,439	
資産圧縮積立金の取崩		2,809		2,809	
剰余金の配当				87,182	87,182
当期純利益				604,453	604,453
自己株式の取得					
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		1,369		518,641	517,271
当期末残高	780,000	60,275	3,080,000	1,800,476	2,119,799

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	109,243	11,647,169	276,080	276,080	11,923,250
当期変動額					
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加					
資産圧縮積立金の取崩					
剰余金の配当		87,182			87,182
当期純利益		604,453			604,453
自己株式の取得					
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			6,986	6,986	6,986
当期変動額合計		517,271	6,986	6,986	510,285
当期末残高	109,243	12,164,440	269,094	269,094	12,433,535

当事業年度(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	4,674,750	5,449,750	29,385	5,479,135
当期変動額				
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加				
資産圧縮積立金の取崩				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	4,674,750	5,449,750	29,385	5,479,135

	株主資本				
	利益剰余金				
	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
資産圧縮積立金		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	780,000	60,275	3,080,000	1,800,476	2,119,799
当期変動額					
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加					
資産圧縮積立金の取崩		2,663		2,663	
剰余金の配当				87,182	87,182
当期純利益				341,982	341,982
自己株式の取得					
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当期変動額合計		2,663		257,464	254,800
当期末残高	780,000	57,612	3,080,000	1,543,011	2,374,600

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	109,243	12,164,440	269,094	269,094	12,433,535
当期変動額					
実効税率変更に伴う 資産圧縮積立金の増加					
資産圧縮積立金の取崩					
剰余金の配当		87,182			87,182
当期純利益		341,982			341,982
自己株式の取得	86,950	86,950			86,950
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			77,469	77,469	77,469
当期変動額合計	86,950	167,850	77,469	77,469	245,320
当期末残高	196,193	12,332,291	346,564	346,564	12,678,856

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 製品・仕掛品

総平均法による原価法

(2) 商品・原材料・貯蔵品

先入先出法による原価法

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

建物 定額法

その他 定率法(岡山工場等3工場は定額法)

但し、平成28年4月1日以降に取得した構築物については定額法

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 31～50年

構築物 7～50年

機械及び装置 5～12年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における見込利用期間(5年)に基づく定額法

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 長期前払費用

均等償却

4. 繰延資産の処理方法

社債発行費

社債償還期間にわたる定額法

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率による計算額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（12年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職金の支給に備えるため、規程に基づく期末要支給額を引当計上しております。

(5) 関係会社損失引当金

関係会社に対する将来の損失に備えるため、当該会社の財政状態及び回収可能性を勘案し、必要額を計上しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引については、すべて特例処理の要件を満たしているため、特例処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
金利スワップ	借入金

(3) ヘッジ方針

変動金利を固定金利に変換する目的で金利スワップ取引を利用しているのみであります。投機目的の取引及びレバレッジ効果の高いデリバティブ取引は行わない方針であります。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

すべての取引が、特例処理の要件を満たしているため、有効性の評価を省略しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(3) のれんの償却方法及び償却期間

5年間で均等償却しております。

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当事業年度に適用し、平成28年4月1日以後に取得した構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、当事業年度において、財務諸表への影響額は軽微であります。

(表示方法の変更)

(損益計算書関係)

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「賃貸費用」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立別掲することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた71,285千円は、「賃貸費用」5,360千円、「その他」65,925千円として組み替えております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている主なものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
受取手形及び売掛金	343,014千円	387,576千円
支払手形及び買掛金	470,571千円	562,876千円

2 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は以下のとおりであります。

担保に供している資産

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	2,050,222千円	2,030,426千円
構築物	201,562千円	199,771千円
機械及び装置	2,317,454千円	2,391,016千円
土地	1,987,226千円	1,987,226千円
投資有価証券	35,870千円	37,740千円
計	6,592,335千円	6,646,181千円

上記のうち、工場財団設定分

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
建物	1,981,193千円	1,969,175千円
構築物	201,562千円	199,771千円
機械及び装置	2,317,454千円	2,391,016千円
土地	1,737,808千円	1,737,808千円
計	6,238,018千円	6,297,772千円

担保付債務

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	1,595,362千円	1,210,396千円
長期借入金	4,020,756千円	3,196,080千円
計	5,616,118千円	4,406,476千円

3 保証債務

次の関係会社のリース会社との契約について、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
(株)トクヤマ・チヨダジプサム	千円	653,046千円

4 手形裏書譲渡高及び債権流動化残高

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
手形裏書譲渡高	170,000千円	160,000千円
手形債権流動化残高	2,155,267千円	2,170,748千円

信託手形債権が取立不能等の場合においてのみ手形債権の買戻し義務が発生する特約となっております。

電子記録債権流動化残高 80,158千円 79,461千円
 電子記録債権が支払不能等の場合においてのみ電子記録債権の買戻し義務が発生する特約となっております。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
売上原価(原材料及び商品仕入等)	3,467,681千円	3,598,837千円
販売費及び一般管理費(運賃等)	5,828,722千円	6,059,884千円
営業外収益(受取賃貸料等)	99,445千円	94,087千円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
運賃	6,390,527千円	6,784,824千円
給料・賞与	964,596千円	987,237千円
賞与引当金繰入額	125,623千円	124,323千円
退職給付費用	76,109千円	83,392千円
役員退職慰労引当金繰入額	13,599千円	14,689千円
減価償却費	115,340千円	193,108千円

おおよその割合

販売費	82.8%	83.8%
一般管理費	17.2%	16.2%

3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	7,653千円	千円
土地	643,848千円	千円
機械及び装置	千円	4,700千円
車両運搬具	千円	46千円
計	636,195千円	4,746千円

(注) 同一物件の売買契約において、科目別では売却益と売却損がそれぞれ発生した場合、当該同一物件の売却損益は純額にて固定資産売却益に計上しております。

4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
車両運搬具	754千円	千円
計	754千円	千円

5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	当事業年度 (自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)
建物	千円	3,307千円
車両運搬具	0千円	123千円
工具、器具及び備品	1,236千円	915千円
計	1,236千円	4,345千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
子会社株式	196,395	261,395
関連会社株式	118,100	118,100
計	314,495	379,495

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	49,165千円	53,293千円
退職給付引当金	242,121千円	255,508千円
貸倒引当金	64,524千円	64,163千円
繰越欠損金	248,187千円	159,915千円
賞与引当金	65,497千円	68,929千円
投資有価証券・会員権評価損	30,145千円	29,607千円
関係会社株式評価損	26,108千円	26,108千円
減損損失	114,230千円	92,071千円
資産除去債務	38,827千円	39,654千円
関係会社損失引当金	227,838千円	229,931千円
その他	63,004千円	59,473千円
繰延税金資産小計	1,169,652千円	1,078,657千円
評価性引当額	951,709千円	866,257千円
繰延税金資産合計	217,942千円	212,400千円
繰延税金負債		
資産圧縮記帳積立金	25,709千円	24,573千円
その他有価証券評価差額金	114,777千円	147,821千円
資産除去債務	2,836千円	1,398千円
繰延税金負債合計	143,324千円	173,793千円
繰延税金資産の純額	74,618千円	38,607千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
法定実効税率	32.3%	30.1%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.6%	6.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1%	0.5%
住民税均等割	3.8%	6.9%
評価性引当額の増減	18.4%	20.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	1.9%	%
その他	1.4%	3.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.7%	19.2%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却 累計額又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	10,205,272	145,964	5,543	10,345,693	5,889,780	253,147	4,455,912
構築物	2,502,674	24,706		2,527,380	1,962,674	46,060	564,705
機械及び装置	23,076,501	1,512,218	4,648	24,584,071	20,545,428	895,770	4,038,642
車両運搬具	63,119	25,567	32,943	55,744	30,141	7,993	25,602
工具、器具及び備品	656,426	29,000	4,689	680,738	570,178	29,773	110,559
土地	10,435,884			10,435,884			10,435,884
リース資産	1,539,978	38,690	51,399	1,527,269	359,515	140,897	1,167,753
建設仮勘定	701,614	65,675	700,480	66,809			66,809
有形固定資産計	49,181,471	1,841,823	799,704	50,223,590	29,357,719	1,373,643	20,865,871
無形固定資産							
のれん	30,000			30,000	24,000	6,000	6,000
ソフトウェア	35,114		8,848	26,266	11,176	5,253	15,089
ソフトウェア仮勘定	2,790	4,500		7,290			7,290
リース資産	289,945	14,539	51,142	253,342	110,578	82,799	142,764
その他	26,773		1,949	24,823	6,241	1,733	18,581
無形固定資産計	384,623	19,039	61,940	341,722	151,996	95,785	189,725
長期前払費用	17,744	4,661	11,676	10,729			10,729
繰延資産							
社債発行費	23,991	12,457		36,448	16,909	5,688	19,538
繰延資産計	23,991	12,457		36,448	16,909	5,688	19,538

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	千葉工場	建屋改修	45,397千円
機械及び装置	千葉工場	石膏搬送設備改造	127,386千円
	下関工場	焼成設備改造	706,289千円
		石膏粉碎設備改造	76,491千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	241,119			1,800	239,319
賞与引当金	217,600	229,000	217,600		229,000
役員退職慰労引当金	164,431	14,689	883		178,238
関係会社損失引当金	762,000	35,000		28,000	769,000

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、主に一般債権に対する洗替額であります。

2. 関係会社損失引当金の「当期減少額(その他)」は、関係会社の業績改善に伴う取崩額28,000千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第78期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) 平成28年6月28日東海財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書

事業年度 第78期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日) 平成28年6月28日東海財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第79期第1四半期(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日) 平成28年8月10日東海財務局長に提出。

第79期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日) 平成28年11月9日東海財務局長に提出。

第79期第3四半期(自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日) 平成29年2月13日東海財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づき臨時報告書

平成28年7月1日東海財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成28年9月12日東海財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成29年 6 月28日

チヨダウーテ株式会社

取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 柴 田 和 範 印

代 表 社 員
業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 新 田 泰 生 印

業 務 執 行 社 員 公 認 会 計 士 小 出 修 平 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチヨダウーテ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チヨダウーテ株式会社及び連結子会社の平成29年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、チヨダウーテ株式会社の平成29年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、チヨダウーテ株式会社が平成29年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1．上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成29年 6 月28日

チヨダウーテ株式会社

取締役会 御中

仰 星 監 査 法 人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 柴 田 和 範 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 新 田 泰 生 印

業務執行社員 公認会計士 小 出 修 平 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているチヨダウーテ株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第79期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、チヨダウーテ株式会社の平成29年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 . 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは監査の対象には含まれていません。